

2024年度第3回日本学連幹事会議事録

【日程】2025年2月13日(木) 20:00 ~ 23:20

【開催場所】zoomを用いたオンライン開催

【議事録作成者】西澤汰知(東北大学)、石井雅人(東北大学)、早川正真(立命館大学)

【目次】

1. インカレ実施規則の全文改訂	3
2. インカレ直前期における日本学連テレインの使用について	3
3. 連盟規約の細部改訂、古い規則の廃止	5
4. UNIVAS SCC制度について	6
5. 練習会・合宿開催時の届出について	6
6. 部局報告	7

出席者(敬称略)

氏名	役職	学校名
遠藤陽太	幹事長	東京大学
石川翔太	会計	東京大学
森創之介	事業部長	横浜国立大学
加藤賢斗	事業部員	筑波大学
石塚陽広	普及部長	大阪大学
西澤汰知	広報部長	東北大学
早川正真	広報部員	立命館大学
石井雅人	広報部員	東北大学
川瀬智尋	事務局長	奈良女子大学
毛利智紀	技術委員会	京都大学
坂本拓登	北東学連幹事長	北海道大学
古谷那奈	関東学連幹事長	千葉大学
加藤優拓	中九四学連幹事長	広島大学
浴本悠貴	理事	神戸大学卒
根本啓介	理事	筑波大学卒
根岸健仁	理事	一橋大学卒
坂野翔哉	業務委託者	早稲田大学卒

1. インカレ実施規則の全文改訂(毛利・根本)

概要

資料の通りインカレ実施規則に関して全文改訂を行う。それに際して、総会での議決を前に幹事から問題点などがないか問いたい。大きな改正点としては、日本オリエンテERING競技規則に準ずるものとして、インカレ固有の条項のみ残す、優勝設定時間をIOF競技規則や日本オリエンテERING競技規則に近づける、上訴に関する項目を追加した点がある。

質問

石塚: EA講習会に参加した際、IOFがライブニッツ協定を取り消したという話を聞いた。まだJOAの競技規則にも反映されていない状態だと思うが、メディアサービスの欄が削除される可能性がある。今後JOAと足並みを揃えていってほしい。

2. インカレ直前期における日本学連トレインの使用について(遠藤)

概要

毎年、インカレ直前期では日本学連トレインの集中的な利用が見られる。今年は時間がなく坂野さんの方で急遽対応していただいたが、幹事長としては、もっと坂野さんとすり合わせが必要な案件だと感じた。前任者である山川さんはこの集中的な利用に対処するあまり、春の業務に支障が出ていた。一方で、学生としてはできる限り応えてほしいところである。

各校へのヒアリング

今回の坂野さんの対応で、困ったこと・良かったことをヒアリングしたい。

京都大学: 合宿の日程は大丈夫であったが、希望するトレインは通らなかった。また、他大の人と合同練習という形になってしまっていた。

東北大学: 希望していた合宿日程が通らず、京京立の合宿に参加させてもらう形となった。トレインは全てではないが希望が通ったので、そこは良かった。

広島大学: 中九四は栃木で合宿を開いていないのであまり影響はなかった。今年度実施されるとちトレには数人参加するため、公開練習として取りまとめを行っていたのはありがたかった。

筑波大学: 希望の日程が通らなかった。筑波大学は日光に比較的近いため、希望者のみで平日に練習会を開くことを計画していたが、その希望は通らなかった。同じトレインを他大と共有するため、コースの設定に関しては難しい場面があった。

早稲田大学: リレー選考に関して合同練習会で行う必要があったので、秘匿性が担保されなかった。

阪神奈: 京京立の合宿に参加させてもらった。他大学から出ている意見と同じようなデメリットを感じる。

千葉大学: 予定していた合宿がとちトレになってしまい、作成していたコースが使われなかった。一方で、合同練習会になることで他校との交流の機会が増えたのはよかった。

北海道大学:今年度は栃木で合宿しないため、直接的なデメリットはなかった。冬季は北海道地区での練習が難しいため他大の練習会に参加させてもらえたのはよかった。飛行機の予約は二か月前から行う必要があるので、日程やトレインが直前で変更になると、困る場面がある。

東京大学:OLKで練習会を主催するときよりも質が下がる部分がある、参加費が上がる。OLKはEカードを普段使用しているが、合同練習会ではSIカードを使用できたのはメリットだった。

今後

今後の予定としては加盟校にアンケートをとり、本質的な問題をピックアップし、坂野さんと調整しようと考えている。

考えられる案としては、数か月前にトレインを公開する、複数個のトレインの使用を許容する、同一トレインを複数団体が使用する、などがある。方向性としては、トレインや日程のバリエーションを増やすか、広報を強化して調整できるようにするか、に分かれる。

今後の対応について坂野から説明

トレイン申請はおおむね一か月前が締め切りである。回覧板を回すのもその数日後にやる必要があるが、普段は対応できる。インカレ直前期では申請件数が多く、またトレインや拠点・駐車場に関する調整が必要であったり、地図の値段といった基本的な質問をする申請者が多く対応しきれなかった。今回のように件数が多いと調整や連絡事項が増えてやりにくいため、利用を制限させていただいた。

合宿等に関して、日程のキャンセルはできるだけ少なくしてなるべく希望に応えるようにした。ただ、利用が多い月の平日の申請は参加予定者が少なくコストが大きいいため、利用が集中している金～月の利用を優先した。

リレー選考の秘匿性に関しては、愛宕山や高畑といった広いトレイン内でコースを組み、拠点を分けることで保たれる。今年度のとちトレに関しても時間帯や計センを分けることで各大学の秘匿性が保たれるようにした。KOLCはトレインを独占して利用できないのであれば利用しない、との判断で利用申請を取り下げた。

とちトレの参加費に関しては、自前でやるよりも確かに上がってしまった。これは設置やSIなどの坂野所有の機材を利用する点から高くならざるを得ないものである。

一か月で30トレインの利用は日程に無理があり、渉外問題の発生などのリスクも生じやすくなる。ひと月の15トレインの利用にとどめる必要がある。繁忙期の利用申請の締め切りを1週間ほど早めてトレインの調整してもよいが、その場合、渉外部の仕事量が膨大になってしまうため、補佐のような人員が必要であると考ええる。

意見・質問

遠藤:人数が少ないからといって却下するのは日本学連的には好ましくない。30トレイン/日は無理だと考えたとき、厳しい要素はいくつかあると考える。①メールやコース調整の対応、②回覧板対応、③トラブル発生時の対応。いちばん厳しいのはどれか？

坂野:一番難しいのはメール対応である。30人相手に同時にメール対応するのは他の仕事もあるため難しい。日本学連のホームページを読めば済むような質問の対応を日学渉外部で省いてもらえると助かる。

遠藤:日光と矢板で同時に渉外問題が起こると、坂野さんは1人しかいないため、どうしてもなくなるという問題もある。

坂野:リスク管理にの側面からできるだけ一日のトレイン利用は一か所であるとありがたい。ただ坂野が対応する必要がある場面は1か月に一回程度で現地に行くようなことはめったにない。

坂野: 公開練習会にしたことで、思ったより社会人の参加者が多かった。公開練習会でなければ参加しなかった層を発掘できている(日本学連の地図販売による増収に繋がる)。

遠藤: とちトレのような公開練習会を行いつつ、使えるテレインを数か月前に提示し、繁忙期の申請自体を数週間早めることが今後の大まかな対応になる。

坂野: 申請が来ないと対応できないため、申請を早くすることが大事。仮申請のような形をとることも案として考えられる。秋インカレ・春インカレ前は、繁忙期対応を設けた方がいいかもしれない。

浴本: 今後とるアンケートに関して坂野さんにも確認したほうが良いと思う。

坂本: 日本学連の所有テレインの使い方や申請期限等の情報を毎年各大学に知らせた方が良いと思う。特に繁忙期対応がある時は知らせてほしい。

3.連盟規約の細部改訂、古い規則の廃止(遠藤)

概要

[1]以下の点について過去の総会で可決されているものの、HP上で更新されていなかったため修正する。

- ・連盟規約の渉外部長の選出地区学連の限定の廃止
- ・学連登録中断申請の成文化

[2]総会の議長に関する規則は、オンライン化された総会の現状に即していない。対応として、①規則に忠実に従う、②規則に従った上で誰も議長に選出されなかった場合は幹事長が議長を務めるという条文を追加する、③幹事長が総会の議長となることを成文化、の3つの案が考えられる。この案に関しては総会で投票をとることとする。

[3]事務機構の構成に関する規則に関して、各部局におかれる会計の項目を廃止する。

[4]地図の作成と運用に関する規約に関して、日本学連新機軸事業(大会運営経験に乏しい大学が日本学連の古いテレインや新規テレインを用いて大会を開催する)を実施するために作られた規則。条文が複雑であること、山川さんに依存した事業であったこと、ある程度役目を果たしたと考えられることから、廃止すべきと考える。

幹事内で投票したのち、総会で投票をすることとする。

→幹事会では賛成多数

[5]業務請負に関する契約書に関する申し合わせに関して、明らかに時代遅れであるため廃止する。

[6]インカレテレインコントロールに関する申し合わせに関して、テレインコントロールワーキンググループが既に存在しておらず、現在同様の機能をインカレSPUが担っているため、廃止する。

質問

毛利:[1]の連盟規約について、技術委員会という立場で幹事会や総会に出席しているが、規約上では出席できる立場にないため、何かしらの形で追記してもらえると良いと考える。

4.UNIVAS SCC制度について(浴本)

概要

SSC制度はUNIVASが提供している、学生が安全安心にスポーツを行えている環境にあることを示すものである。

取得する目的

- ①インカレ実行委員会が医療従事者を呼ぶ際に、医療従事者の交通費等を補償してもらえる
- ②日本学連の信頼性を高めることができる

取得のために必要なこと

①インカレ関連のチェックリスト

実行委員会タスク:大会設備の点検や保険加入、アンチドーピング研修の受講など

日学タスク:大きな事故が起きた際の情報の共有

- ②平時からのチェックリスト(UNIVAS主催の安全管理やハラスメントの研修への受講指示、ハラスメント相談窓口の設置、SSC認証に向けた資料のHPへの掲載など)

質問

川瀬:セミナー受講後の動きや事務局がハラスメント相談を受けた際の対応方法については、来年以降具体化していくということか。

浴本:相談を受けた際は理事会へ報告し、そこで対応に関する指示を仰ぐ流れになる。対応方法についてUNIVASから指示があるわけではないと認識している。

毛利:運動部でないオリエンテーリングクラブも多い。

遠藤:UNIVASでは大学非公認のクラブやサークルを含めて運動部という建前にしている。

5.練習会・合宿開催時の届出について(遠藤)

概要

練習会・合宿開催時には必ず日本学連に申請書と報告書を提出する。地区学連には日学から共有し、都道府県には必要に応じて別途提出する。締切は各地区の締切に従う。

報告書では、涉外問題、救急搬送、有害動物の出没などの有無について聞く予定である。

意見・質問

西澤:普段の練習会でも提出するということか？

遠藤:その通りである。

西澤:東北大ではほぼ毎週末練習会を開催していて、土日で両方やることもある。負担になる申請方法ではないか？

遠藤: 関東学連の届出書とベースとしては同じ形になると思う。基本的に許可をしないということはない。

坂本: 関東地区では練習は主に遠征や公開練習会のような形で行う場合が多いと認識している。北大では練習会は多く開催しているが、渉外が必要なトレインはない。なぜこのような申請が必要なのか、という抵抗感が生じる可能性がある。

遠藤: 日本学連として、安全性やトラブル対応の面から各加盟校がどれくらい活動しているか把握するべき。安全面や渉外問題対応についての情報の収集が目的である。

浴本: 関東学連では現在整備されている届出書は使用されているのか？

古谷: 渉外担当がメールを受け取っているが、関東学連内で毎回共有しているわけではない。

浴本: 制度をあまり理解していないクラブから届け出がないなど、制度を定めても結局利用されないという事態も想定できる。できるだけ申請の内容は簡略化したほうがいい。

加藤: 練習会など、どこまでの範囲を申請するのかがいまいち分からない。先ほどキャンパスOは申請しないという話があった。基本はフォレストを想定しているのか、公園も含むのか？

遠藤: 設置のあるキャンパス以外のフォレストやパークOを対象とする。

加藤: 新歓でフォレストを使用することもあるが、それも届出の対象になるか？

遠藤: 新歓であってもトラブルは起こり得るため、届け出はしてほしい。

6. 部局報告

概要

資料の部局報告を参照のこと